
赤い造花の物語

赤宮ゆる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤い造花の物語

【Nコード】

N4883BA

【作者名】

赤宮ゆる

【あらすじ】

中学卒業間際の幼なじみ3人がいつものように帰り道を歩いていると見かけない少女が通りかかった。しかし少女は3人の目の前で轢き逃げされてしまって・・・。

はじまり（前書き）

はじめまして

赤宮ゆるともうします。

文才はあまり期待できませんが
ゆるく更新していきたいと思います。

ぜひお付き合いください

はじまり

いつも、

通っている登下校の道なんて、

中学の卒業に近づいてもありがたみなんてものは感じなかったり。
それこそ、

周りなんか見なくなっていくもので、

こんな道の端に季節外れのタンポポが咲いているなんて気付きもし
なかった。

なぜ、今僕がそんなどうでもいいことを話しているのかと言うと、
ちょっとした現実逃避だったりする。

ほんとうに、

数分前まではいつもと同じありふれた・・・というとあれだが
大しておかしなことなんて無い平和な日常だったというのに。

少女のおわり。

- - - 数分前 - - -

「佑樹！翔太！あの子見て！！すっごく可愛いわよ」
急に、三步前を歩いていた幼なじみの太田真由が振り返り僕、桜佑樹と

同じく幼なじみの大岩翔太にそう言った。

言ったというか、叫んだというか。

とにかく、僕たちの進んでいる方向の右の道から確かに可愛い少女が歩いてきていた。

少女は横断歩道を歩いている最中で

遠目には茶髪に大きな赤い花の髪飾りがよく映えている。

ところでおい。真由お前そんな可愛い少女に

堂々と指を指すのはやめなさい。

「で？何が言いたいんだよ」

僕の隣の翔太が当たり前といえは当たり前というか

正直なんで僕は思いつかなかったのか不思議なくらい普通の質問をした。

指を指してるとかそんなの言われてみれば結構どうでもいいし。

「え？？特に深い意味はないけど。でも、ここら辺じゃあんまり見かけない子でしょ」

こんな田舎で見かけない子供がいるほうがおかしいな。

・・・そうだ、たしかにあんなに可愛らしい子は今までに見かけたことが無い。

とすると、どこからきたのだろうか？

不思議に思っただけ少女の顔をよく見るために僕は少し歩く速度を速めた。

その時、

僕たちの横を明らかにスピード違反の大型トラックが通り過ぎた。

「な・・・何だ？あの車は」

やっと、僕がその一言を発したとき

すぐ目の前で大きなブレーキ音と鈍い衝突音がした。

そして、宙に舞う少女の体。

何が起ったのかわからなかった。

少女はドサツと鈍い音をさせてアスファルトの道に落ちて、トラックはその少し先で止まって、

どこかのサスペンストラマでこんなシーンがあったかな。と、頭のなかで思う。

そんなことを考えてこれもテレビの中の出来事だと、そう思いたかった。

しかし、僕の見たことは現実のようで夢だとも思ったが

つねった頬はしっかりと痛い。

つまりは、少女が撥ねられた、と。

――

今、僕の目の前の黒いアスファルトの道には少女のものであろう小さな血の池ができています。

そこに頭から血を流している先ほどの少女の小さな体があった。

それから、呆然と突っ立っている真由と翔太。

1分くらいの間呆けて動かなかった僕達。

一番初めに行動したのは僕の隣の真由だった。

真由は僕の腕にしがみ付いてそれから

一生懸命に唇を震わせて言葉を発した。

「あ……。っ、ね、ねえ……。病院……。きゅ救急車に、電話し、なきや」

真由は僕に話しかけたらしいのだが返事なんて出来なかった。

何しろ僕だつてろくに落ちつけていないくせに、

それに、誰がどう見たとしてもあの少女はもう息はしていないだろう。

後から考えればそう思っただがそのときは

僕も、真由も、それから翔太もそんなこと考えられなくて

とにかく頭の中が混乱していた。

真由はもたつきながらも

自分の鞆から元気な彼女らしいオレンジのケイタイをとりだして

「119」を必死に押している。

何回も押せば早くつながると言う訳でもないが。

僕は、血の池の中に横向きに倒れている少女を見やる。

綺麗な、とても整った顔をしていた。

頭についていた赤い花の髪飾りは血の池の中に落ちてしまっていて

まるで、白い花が赤く染まったかのようにだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4883ba/>

赤い造花の物語

2012年1月13日15時00分発行